博多湾に浮かぶ島々まで見渡すことが出来る壮大なロケーションの中で、子どもたちの夢を育み、大人たちの心をも豊かにしてくれる場所を生み出したい。その願いから生まれたのが現在の園舎です。

内外を穏やかに連続させ、眺望と風の流れを意識した造り。2歳から6歳という年齢に応じた移動距離や高低差、活動範囲が考慮された見事な設計です。

既存の棚田を造成しながらも大きく3つのレベルに整理。年齢ごとに中庭を囲みながら開かれたスペースを目指しました。まず、園舎は床から1mの高さまで、園児の身長を考え、収納や壁で囲むことにし、その上部は出来る限り開放的に透過性を高めたいと考えました。それは、部屋の中に居ながらにして自然を感じ、なおかつ落ち着いた環境を生み出すことが重要だと思ったからです。教諭にとっては互いの部屋を透過しながら視線を行き来させ、コミュニケーションが取れる空間にすることが安心できる幼稚園を実現する上で必要だと考えました。

また、大きな庇(ひさし)としての外部廊下までを保育室と捉え、軽やかな屋根の下で内外一体となった園児の居場所を考えています。大きな屋根をいかに軽やかに見せるか。スパンを飛ばしながらも木造の柱が森の延長として自然に溶け込むようにと、さまざまな検討の末、柱は上部で枝分かれし、格子梁を支持することになりました。2本、あるいは3、4本と場所によって異なる枝分かれは、子どもたちの小さいスケールにいっそう馴染む空間を生み出しています。なお、各保育室は、園児の集う高さ1mの範囲を空調対象範囲として、床から冷暖房によって室内環境をコントロール。中間期のほとんどはトップライトからの光と風の抜けといった自然通風採光によって環境が保たれています。

【日本建築学会作品選奨受賞】さつき幼稚園の新園舎は2009年の日本建築学会作品選奨を受賞しています。子どもの生活空間のあり方を正面から捉え、子どもたちの目線に立って、子どもたちの居場所を巧みに創りあげたこと。また、木材の持つ可能性を大らかに表現したことが評価されました。

さつき幼稚園の園舎ができるまで

敷地の選定時期から造成・設計・工事・新幹線の移転と、本当に長い道のりでした。
完成への道は平坦なものではなく、大変困難な局面を何度も乗り越えてのことでした。
その間、多くの方々と力を合わせて頑張ってきました。
これらの局面を乗り越える力を与えてくれたのは、園児達の屈託の無い笑顔と、
園のスタッフの並々ならぬ保育への情熱とその裏方での膨大な作業風景です。

1 園舎の設計～構造

微地形とは言え、幼い園児にとっては起伏のある敷地です。
年齢に応じた移動距離や高低差や活動範囲を、何度も幼稚園側と相談しながら設計を進めました。

冬／春／夏／秋と四季を通じてこの敷地に接する中で、大きく３つのレベルに分けながら、囲みつつ開かれたデザインにすることを心がけました。敷地はそれまで棚田が広がっており、その特性を生かしながら園児がのびのびと安心して一日を過ごせることを目標としています。

年齢毎に中庭を持ったのもその一つです。さつき幼稚園が拘ってきた理念が、この木の園舎に一杯詰まっています。

床から１メートルの高さまでは、園児の身長を考え、収納や壁で囲われた、落ち着いた環境を生み出しています。

大人達にとっては、その丈は透過性の高い、コミュニケーションのとりやすい、視線の通る空間となっています。福岡市の西方を一望できるすばらしい展望ですが、是非一度、膝をつけて子ども達の目線で見渡してみて下さい。今までの風景とは異なり、今度は油山の木々や大きな空が目の中に一杯入ってきます。囲われた安堵感のある部屋の中で子ども達は自然に抱かれた時間を過ごすことになります。

また、柱の東部が分かれているのに気がつかれましたか？枝分かれした木が集まって林となり、森となって大きなぬくもりを生み出すようなイメージです。これは大屋根を出来るだけ軽く見せながらバランスのとれた構造とするための工夫です。天井の細やかな格子は宮崎産の杉を使用し、保育室の壁は大分産の杉、柱は長野産の唐松の集成材で、デッキの床は水に強いウリンを使用しています。新園舎は自然素材に拘った仕上げとなっています。

2 構造

日本建築構造技術者協会(JACA) 新人賞や日本構造デザイン賞、日本土木学会デザイン賞 2016　最優秀賞、第 8 回キッズデザイン賞・キッズデザイン会長賞等を受賞した岡村仁先生にお願いしました。通常使われる木造の 1.5 倍ほど大きな柱（180×180）を数多く配置していることが特徴で、柱と頓杖（斜め材）、屋根梁（格子梁）が一体となって、樹木のような強いフレームを形成しています（剛接架構）。住宅など普通の木造建物は筋交い（壁）によって地震に抵抗しますが、剛接架構はこれに比べて粘り強い構造となっており、当園では柱の下部に特殊な接合方法を用いるなど、さまざまな工夫がなされています。また、大地震に対しては、耐震設計の標準的な数値である設計せん断力係数（ＣＯ）を通常 (0.2) の 1.5 倍 (=0.30) で設計しており、高い耐震性を確保すると同時に、台風などの強い風に対しても強い構造となっています。

3 資材

全ての材料にフォー・スター(☆☆☆☆) の証明がなされたものを使用しています。ホルムアルデヒドの対策も万全なグレードの最も高い素材です。

また、床に関しては無垢の床材を使用しています。また、壁は耐火性に優れており、福岡市の防火優良施設に認定されています。

新幹線がやってきた！

4 はじまり

さつき幼稚園のシンボルとも言える新幹線が園にやってきたのは開園 10 周年にあたる平成 2 年 (1990 年) 6 月のこと。子どもたちの強い希望を叶えるため、新幹線車両としては “初の民間払い下げ” という形で、0 系新幹線先頭車両「22－75」を購入しました。

この車両は1969年､万博輸送対策用の＜こだま＞用として製造されたもので、1985 年～ 1990 年までは博多ー小倉間を「こだま」として走行。
1990 年 6 月に博多総合車両所から、さつき幼稚園にトレーラーで搬入されました。

しかし、他に例がなかったことから輸送は困難を極め、車両購入費、輸送費 2 千万円をかけて、半年掛かりで搬入。後に旧園舎から新園舎に移動する際にも分割して移動させるなど大変でしたが、現在では屋根も付き、子どもたちの図書館兼遊び場として大いに活躍しています。

ちなみに、この同系の 0 系新幹線 (初代新幹線) は 2009 年にラスト・ランを終えており、一部の博物館で保存されるほかは、なかなかお目にかかることのできない貴重な車両となっています。

5 運搬

新幹線は流石に細い道は通れないので、分割しました。
旧園舎は建ててたった 25 年でしたが…より良い環境を求めて移転を決意しました。

日本建築学会作品選奨受賞

6 受賞

さつき幼稚園の新園舎は 2009 年の日本建築学会作品選奨を受賞しています。子どもの生活空間のあり方を正面から捉え、子どもたちの目線に立って、子どもたちの居場所を巧みに創りあげたこと。また、木材の持つ可能性を大らかに表現したことが評価されました。

同賞は 1995 年に制定され、(社) 日本建築学会が 1989 年より毎年刊行している『作品選集』に掲載された作品の中から、学術・技術・芸術の観点から見て、特に優れた作品を表彰するもので、住宅設計、修景設計、広場設計、団地設計など都市デザイン的な領域を幅広く含むことが特徴となっています。

2009 年度は『作品選集 2009』に掲載された 100 作品 (応募総数 290 点) の中から、作品選奨選考委員会が現地審査の対象となる 24 作品を選定し、現地審査を経て、最終的に当園を含む 11 作品が選ばれました。